

「奥州市」誕生

10周年記念式典

2016.2.20
奥州市文化会館
(Zホール)



10年先、20年先

奥州市が

「幸せを実感できるまち」

であることを願う

奥州市民Z管弦楽団によるオープニング入場演奏で会場が華やかな雰囲気包まれる中、市民や国会議員、岩手県知事、岩手県議会議員、姉妹都市の静岡県掛川市、北海道長沼町、同厚真町、近隣市町の首長など約700人が出席し、奥州市誕生10周年の節目を祝いました。

式典に先立って、市内12の中学校生徒64人による「奥州市民のうた」の合唱、昨年4月に統合した前沢小学校児童7人による「奥州市民憲章」の朗読と共に、出席者全員が唱和し、10周年を迎えた喜びをわち合いました。

式典では、小沢昌記奥州市長が、10年の時が刻んだ本市の歴史を振り返り「地域の個性がひかり輝く自治と協働のまち」の実現に着実に向かっているいま、より良いまちづくりのために尽力された市民に対し、そして二度の天災に見舞われ、苦難を乗り越える礎となった市民の総力に対し感謝を述べました。

また、偉大なる先達——後藤新平が説いた「人のお世話にならぬよう 人のお世話をするよう」という自治の精神を念頭に、これからのまちづくりに、全ての市民が代わる

代わる主役を演じ、互いに尊重し合い、融合と創造を繰り返しながら自己実現を感じる「幸せを実感できるまち奥州市」の創造に向け、共に歩んでいく決意を呼び掛けました。

式典の席上、まちづくりの推進への貢献や知名度の向上に寄与された団体・企業に対し、また地域自治の推進に尽力された個人に対し表彰を行いました。

受賞者を代表してあいさつしたおうしゅうグリーン・ツーリズム推進協議会の森岡誠会長は「年々減少し続ける市の人口に歯止めをかけるには、オール奥州による市民活動や生産活動、組織活動が必要である。きれいだね、また来たいねと思ってもらえるよう、全国そして世界に発信していくことが課題。そのためには一層の努力を惜しまない」と、協働のまちづくりの一翼を担って行く決意を述べました。